

# これからのコミュニティ・スクール

前編

市に学校運営協議会制度が導入され、全ての小・中・義務教育学校がコミュニティ・スクールになって5年目になります。今年7月には、文部科学省主催の「地域とともにある学校づくり推進フォーラム2023」が茨城県で開催され、「社会に開かれた教育課程の実現」に向けた事例として、牛久市のコミュニティ・スクールの取り組みが紹介されました。また、昨年度は「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」に係る文部科学大臣表彰を、牛久南中学校の「学校運営協議会」が受賞しました。他県からも視察がくるなど、現在、牛久市のコミュニティ・スクールの取り組みが全国的に注目されています。

## コミュニティ・スクールとは？

学校運営協議会制度を導入している学校のことをコミュニティ・スクールと呼びます。今までは、学校運営は学校だけで行っていました。しかし、ＡＩ化が進むことで、今ある職業の半数近くが自動化され、将来多くの子どもたちが今存在していない職業に就くといわれています。そのような中で、これからの予測困難な時代を生き抜く子どもたちを育成するために、学校だけでなく地域の方とともに社会総ぐるみで子育てをしていく流れになりました。



そこで、地域の方が学校運営に参画する仕組みとして、学校運営協議会制度が導入されました。令和4年度までの茨城県の学校運営協議会制度の導入率は24%です。そのため、まだ学校運営協議会について知っている方は少ないかもしれません。現在は、学校運営協議会の導

入は努力義務化されているため、これからは、多くの学校がコミュニティ・スクールになっていくと思います。

## 「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた牛久市の取り組み

コミュニティ・スクール(学校運営協議会)の目的は、保護者や地域の方々との「学校経営をともにしていく」ことが示されています。その中心となるのが「社会に開かれた教育課程」の実現です。その内容には、「子どもたちに育成しようとする

資質・能力を教育課程を通して地域社会と共有していく」とあります。教育課程とは、言い換えると授業のことです。

牛久市では、「一人残らず質の高い学びを保障する安心と夢中の学校づくり」「授業を変えて子どもを変えて学校を変える」取り組みをしています。日々の授業の中で「ケアリングコミュニティ(互いにケアし合える集団づくり)」と「ラーニングコミュニティ(互いに学び合える集団づくり)」を作っていくことで生徒指導の問題も授業を通して解決しようとしています。そのために教員同士お互いの授業を見合い、そこで学んでいる子ども一人ひとりの学びの事実を子どもの名前を挙げて語り合う(リフレクション)ことで、授業力や同僚性を高めています。

現在、学校運営協議会の委員も「授業を見て、リフレク

ション」を行っています。参加した委員からは、次のような意見が出されました。

- ・先生方が授業を通して子どもたちをいかに学ばせるか、とても難しいことだと思った。
- ・民生委員として関わっている家庭の子どもがグループで友だちに支えられながら、いい顔で学んでいる様子を見て、授業を通して子どもつながりも作っていることが分かった。
- ・全ての子どもを学ばせるためには高い課題が必要であることが分かった。また、先生方が何時間もかけて授業準備をしているとは知らなかった。

このように、学校運営協議会の委員が学校の先生とともに研修に参加し、子どもたちが学んでいる様子について語り合うことで、深い学校理解に繋がります。これから学校づくり、授業づくりに繋がっています。

後編は「12月1日号」予定

